

第196号
2025年
10月5日

A photograph of a Buddhist altar (butsudan) with a portrait of a woman and a memorial tablet. The altar is ornate, featuring a central image of a Buddha figure. In front of the altar, there is a portrait of a woman in a light-colored kimono, a memorial tablet (ema) with the text "莊嚴院釋法香" (Shōhō Kō), and a small red and white offering. The altar is decorated with flowers and a large green plant.

ここに謹んでご報告申し上げます。

住職釋了法

月に一度の通院加療を続けておりましたが、年末から急激に悪化した。本年正月早々に緊急入院を致しました。入院後、悪化はくい止められましたが、退院後も酸素補助を付けての、要介護生活が始まりました。酸素状態となり、また就寝中や食事の際にも酸素不足の発作がしばしば起こり、その苦しさは百メートルを全力疾走した後の息苦しさで、長い時には1時間ほど続くというものでした。

本来、最もくつろぐ時間である食事や睡眠の際にそのように発作が起こることは、誠に辛いことであつたろうと思います。

しかし、そんな中にあつても弱音を吐くことはほとんどなく、しつかりとした自分の意思を持って、けなげに自分の生活を続けておりました。

ところがこの8月には体全体が落ち、よほど辛くなつてきたのか、本人自らが入院生活を求めるに至りました。

が幸せであつたことに感謝し、家族一人ひとりと思いを交わしながら遺言し、そしてなによりも確かな往き先を持つわが身であることを悦びながら、一期のいのちを終えていきました。

念仏者・坊守として見事な往生でありました。

正直申し上げて自宅での介護中は、お箸を持つのもしんどい状態のためお念珠を手にすることなく、呼吸が精いつぱいで口からお念仏がこぼれることもかなわない状態を見て、浅はかにも私はあらぬ心配をしておりました。

ところがこれは全くの杞憂に過ぎなかつたのです。

美佐子は終始お浄土に生まれさせて頂くことを悦んでおつたのです。

のみなならず、おれることには不安をおろすばかりに、対し『お父さる待って浄土で必ずあて』と、この安心し



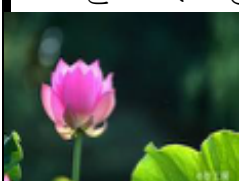
題材法話

て、のそ
 苦しみが嘘には
 安らかな美しい顔
 に、安らかに
 をして9月5日の朝に
 お浄土に往生いたし坊
 した。わが妻、わが坊
 守は誠のお念仏者であ
 りました。御文章の『聖人ま
 たく数珠をすて、た
 を拝めと仰せられたる
 ことなし、さりなが
 ら、数珠をもたずと
 も、往生浄土のため
 は、ただ他力の信心に
 とはつばかりなり、そ
 にはさわりあるべから
 ず』とていう御文を思
 出させたくれました。
 が、お念仏を申すこと
 かなわなくなつたとし
 て、阿彌陀様の方
 は、『大悲無常の我
 と常に私の心を配
 して下さつてお配
 さい。』とて、お
 しめ取つたなら、誓

よくご挨拶で「お
 わり、何ごいせんか」
 と、すがすがしい
 ますが、変な
 ごせ、難いこと、
 ー有り、年か
 いうこと、年齢共
 り感ずる。が多
 この世のすべてが諸
 行無常であり、数々の
 変化の中、生活を送
 て、いす。若くは
 まだ、いす。変化多
 であ、良、年、変、重
 と、あ、良、変、起
 き、ま、せん。良、変、起
 こと、今、出、来、な
 る。が、これ、も、つ、ら
 化、す。が、人、の、別、れ
 辛、い。が、人、の、別、れ
 多、く。な、つ、て、く、る
 す。こ、れ、は、何、と、も
 寂、し、い。こ、れ、は、何、と、も
 会、つ、た、ん、な、り、は、別



言、つ、て、ま、す。
 友、人、を、失、う、事、は、自
 分、の、人、生、の、一、部、を、失、う、事
 こと。
 親、を、失、う、事、は、自
 分、の、過、去、を、失、う、事、は、自
 分、の、未、来、を、失、う、事、は、自
 分、の、配、偶、者、を、失、う、事、は、自
 分、の、現、在、を、失、う、事、は、自
 事、は、自、分、の、人、生、の、一、部
 を、失、う、こ、と、だ、う、す、が、
 確、か、に、ど、ん、な、に、親、しい
 友、達、で、も、死、別、は、寂、しい
 で、す、が、そ、れ、は、所、詮、自
 分、の、人、生、に、お、い、て、は、一
 部、で、し、か、な、い、と、言、う、こ
 と、で、す。
 は、自、分、の、過、去、を、失、う、こ
 と、だ、う、す、が、確、か、に、自、分、の、こ
 と、で、も、物、心、が、自、分、の、こ
 く、分、の、こ、と、は、自、分、の、こ
 番、で、す、か、ら、知、つ、て、い、そ、れ、は、
 親、で、す、か、ら、知、つ、て、い、そ、れ、は、
 過、去、を、失、う、こ、と、だ、う、す、が、
 る、の、で、す、か、ら、知、つ、て、い、そ、れ、は、



の、未、来、を、失、う、気、持、ち、だ
 と、思、い、ま、す。
 最、後、に、配、偶、者、（連
 れ、合、い）を、失、う、こ、と
 は、自、分、の、現、在、を、失、う
 こと、だ、と、い、い、ま、す。
 昨、日、ま、で、ご、く、自、然、に
 居、て、く、れ、た、人、が、居、な、く
 な、る。今、現、在、の、自、分、の
 生、活、そ、の、も、の、が、失、わ、れ
 る、思、い、で、す。
 で、は、自、分、が、亡、く、な
 る、こ、と、は、す、べ、て、を、失、う
 こ、と、に、な、る、の、で、し、や、う
 か？ つ、づ、く
 より
 仏、壯、総、会、住、職、法、話
 一、お、詫、び
 葬、儀、は、で、き、る、だ、け、慎、ま、し
 く、執、行、つ、て、欲、し、い、と、い、う
 坊、守、の、強、い、意、向、も、あ、り、ご
 族、だ、け、の、密、葬、も、そ、し、て、ご
 法、中、を、お、迎、え、し、て、門、徒、親
 族、で、の、本、葬、を、執、り、行、わ、せ、て
 頂、ま、し、た。
 報、告、に、な、つ、た、こ、と、に、お、叱、り
 を、頂、い、て、お、ま、す、と、共、に、お、詫
 前、こ、易、り、ま、し、と、ご、厚、青、こ、采